

「カンボジア・ラオスにおけるプロダクトデザイン促進事業」及び インテリアライフ展を終えて

アートリソース代表 北河原純也

1. 「カンボジア・ラオスにおけるプロダクトデザイン促進事業」についての新しい試み

貿易部の展示商談会事業では、過去数回にわたりアセアン諸国の対日輸出のための、プロダクト開発指導並びに商品セレクトを行ってきた。アセアン諸国の推薦する企業の中から日本の展示会出展企業を選出、その企業に対し出展商品のアドバイス並びにセレクトを1回の派遣で行う。訪問した企業に対しては、各社の商品における改良点を細かく指導するが、展示商談会参加の後までフォローできず、この方法だけでは日本市場への参入のチャンスを支援することが難しいと私は常々感じていた。

しかし、今回この問題を改善するべく貿易部より新しい提案があった。つまり「カンボジア・ラオスにおけるプロダクトデザイン促進事業」において、通常1回の派遣のところ、2回の派遣とし、セミナー、ワークショップを開催し、より適確な指導をおこない、かつ改良点のチェック機能が活かされるというものだ。そのプロジェクトのアドヴァイザーとして係れた今回の事業は、大変有意義なことだと実感した。

毎回、派遣の度に感じていたこの問題点すなわち、日本マーケットの情報不足。今回の2回の派遣によって各企業に対して、今までより時間が取れ、詳細なマーケット情報を提供することが出来、アセアン各国企業の貿易促進によりつながる方法であることを確信した。

国によってプロダクトのレベルに差はあるが、ある程度のレベルに達した企業に日本マーケットの情報（日本人のライフスタイル、消費者動向、トレンド、用途、サイズ、カラー等）を提供することで、日本マーケット参入を希望する企業にとって、より一段とビジネスチャンスに近づくはずである

2009年の11月から12月にかけてカンボジアとラオスにおいてセミナーを開催し日本企業のトレンド情報を提供した。さらに、小グループに分けグループ・コンサルテーション、または企業訪問による商品開発指導をした結果、アセアン各国貿易促進機関は、最も日本市場に適した企業を推薦しやすくなり、出展参加企業を適確に選出することができたのである。また、最も有望な企

業に対しては、インテリアライフスタイル2010へ出展のチャンスがあるという大きな目標のもと、課題を提供してきた。



第1回セミナー（左）とワークショップ（下）



そして2010年の3月に2回目の派遣となるが、課題をどう達成したか、つまり日本市場向けにどのように商品開発を行ってきたか、確認作業を行うものだった。

第2回目のワークショップ（下）



2回目のワークショップでは大勢の参加者の中で確認作業を行った。まじめに課題を仕上げてきた企業は、インテリアライフスタイル展の晴れ舞台にたて

ることとなった。



カンボジアとラオスのスペシャルセッティング

今後、貿易部がこのメソッドを使い、各国と取り組むことが出来るのであれば貿易促進の支援によりつながると思う。

今回はスタディーケースとして行ったのでまだ幾つかの課題はあるが、次回に向けて検討を重ねこの方法を活用することで各国の貿易促進支援によりつながることを希望する。

2. 「インテリアライフスタイル2010」企業訪問についての総論

今回の展示のデザイン性、品質等についてさらに良くなっているとの評判も多かった。

フィリピン

フィリピンプロダクトは日本マーケット参入のレベルに達している。より詳細なマーケット情報を提供することで、よりビジネスチャンスが期待される



ブルネイ

参加企業は日本マーケット参入に意欲的でプロダクトのクオリティーも問題ないが、価格が高いので調整が必要。ターゲットとなるマーケットに向けて価格を調整できればビジネスチャンスの可能性はある。もしくはハイエンドユーザー向け商品開発が必要。



ミャンマー

アセアン諸国でほとんど失われた漆プロダクトを自国の代表するオリジナルプロダクトとし、現代生活に必要とされる商品開発、発信することで新たなマーケットを開拓できる可能性がある。また、貝細工とのコラボレーションで新たなオリジナル商品の可能性が見える。



ラオス

今、世界のマーケットが求めているプロダクトのなかに自然素材で上質なハンディークラフトがある。ラオスの布製品はこのマーケットのニーズに応えられる可能性がある。そのマーケットに向けてのハイクオリティ商品の開発が出来れば、当然日本のマーケット参入の可能性がある。マスマスプロダクションを目指すだけがビジネスではないと思う。



カンボジア

隣国に比ベシルクの価格が安く品質も悪くない。ホームデコレーションと共にファッションマーケットのトレンドに合った商品開発をすることが日本マーケットへ参入する早道と思う

